

【賑わい応援談⑥】

地域文化の花を咲かせよう

村木哲文氏  
(尾去沢在住)

関善「芸術文化プログラム」に期待する

NPO関善賑わい屋敷主催による旧商家「関善酒店」や康楽館を舞台にした「芸術文化プログラム」が開催されると聞き、早速会員券を購入しました。

わらび座の是永さんという人が、鹿角は、伝統芸能や民謡、民話・伝説等が豊かに息づいており「芸郷」(芸術文化のふるさと)と呼ぶにふさわしい土地柄であると言っております。

外から評価されることは大変うれしいものです。豊かな伝統文化や自然、それに関善のような貴重な建造物等を生かした鹿角独自の新しい地域文化の掘り起しができないものかと考えを巡らしてきました。

物質的には豊かでも息苦しさを感ずる現代、大自然、古い民家や神社・お寺等でのコンサートや芝居はすごく心が解放され、また、生きる力が湧きます。

岩手県七時雨山での自然を舞台にした民間団体によるコンサートや自然探勝がすっかり定着し、毎年、全国から多くの人が集い交流しているのを見ていい試みだなと思っていました。今年は宗次郎や作家の山田太一さんが予定されているとのこと。

私の関係しているところでも、「演劇を楽しむ会」は鹿角の自然、風土、鹿角弁を生かした芝居を15年間続けており、「尋常浅間学校かづの分校」は、お寺を主会場にユニークな講師を招いているし、八幡平市民センターの「だんぶり塾」は小豆沢の大日堂でのコンサートや芝居が評判となっています。いろいろな団体がいろいろな場所で競い合い文化の花を咲かせるのは鹿角にとっても大変いいことだと思います。劇作家の平田オリザ氏は、芸術文化の重要性を訴え、リストラ、自殺の多い厳しい時代だからこそ芸術文化をとおしての感動体験、生きる喜びが必要であり、また芸術文化の振興は地域の競争力を高めると言っております。

今回の関善賑わい屋敷のプログラムで、大いに楽しませてもらいたいと思っております。

芸術文化プログラム



歴史的文化施設で鑑賞する「芸術文化プログラム」(NPO関善賑わい屋敷主催)は24日から10月19日まで、鹿角市の関善、小坂町の康楽館で行われる。入場料が半額程度になるグループ会員券(1枚6000円)を発売中。家族や友人とも一緒に利用でき、主催者は「低価格で生のステージを楽しんでほしい」と呼びかけている。

演奏や歌唱、落語などが繰り広げられる。初回は24日、関善での薩摩琵琶弾き語りコンサート。奏者・林洋子さんが宮沢賢治の作品を上演する。小学生以下は無料。グループ会員券は1枚6000円の範囲内で、1人6回まで複数公演を鑑賞できる。会場使用料は別に必要。関善は1000円、康楽館は5000円。プログラムや会員券の問い合わせは同屋敷 ☎0186・23・7799。

24日から「芸術文化プログラム」

公演内容は次の通り。  
▽林洋子薩摩琵琶弾き語り「なめとこ山の熊」(24日午後6時半・関善、一般入場料2000円)  
▽ベル・ウィエントス・オルクローレライプ(29日同・同、同)▽モーツァルト生誕250周年記念ドイツ歌曲とオペラの愉しみ(7月15日午後2時・同、同)▽モンテン・モ「智恵子抄・夏抄」(同23日午後7時・康楽館、3000円)▽モンテン・モ「日本の懐かしい歌」(同24日午後6時半・関)

割安のグループ券販売中

券、2000円)▽松田隆行津軽三味線ライブ(同30日午後2時・同、同)▽モーツァルト生誕250周年記念イタリオペラのことき(8月27日同・同、同)▽古田徳明フォルクルーレライプ(9月30日午後6時半・同、同)▽ベル・ウィエントス「三潮伝説」(10月8日午後7時・康楽館、3000円)▽桂文也落語(同19日午後6時半・関善、2000円)



(H18.6.19 女鹿)